

あきたの 地域医療通信

2010年9月 第8号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策室



平成 23 年度から日本医科大学千葉北総病院と救急プログラムを相互に行うこととなった、大館市立総合病院の臨床研修の取組をご紹介します。

大館市立総合病院の臨床研修の取り組み

大館市立総合病院副院長 八代 均

大館市立総合病院は平成 19 年 10 月に屋上にヘリポートつきの 11 階建ての入院病棟が完成し、また平成 21 年 4 月に駐車場も含め全館がリニューアルとなった。22 の標榜科、ベッド数 493 床、外来平均患者数が 1,107 人 / 日、入院患者数が 400 人 / 日 (平成 21 年度実績) で北秋田地区の中核病院である。

当院の初期研修は単独型定員 4 人、弘前大学と秋田大学の研修協力病院 (たすきがけ) として研修医を受け入れている。現在、2 年目の当院の研修医 2 人、弘前大学から 2 年目の研修医 2 人、1 年目の研修医 1 人の計 5 人が初期研修を行っている。また、当院で 2 年間の研修を終了した 2 人が、今年度そのまま職員として採用された。内科研修は第一内科循環器・呼吸器、第二内科消化器・血液、第三内科内分泌・糖尿病・神経内科の標榜で内科全般を専門医および指導医のもとで研修が可能である。外科は手術例数が多く、産婦人科も年間の出産数が約 500 例、精神科がベッド数 110 床で症例が豊富である。小児科は近隣で入院設備があるのは当院のみで、切れ目のない臨床研修が可能である。

当地区の救急診療の実態は、当院へ緊急受診する患者数が平成 22 年 1 月～6 月までの半年間で 3,934 人、そのうち夜間に受診しているのが 2,638 人である。救



小児科津川浩二副部長の指導で救急外来の患者の診察する
千葉友揮研修医 (中央)

急車による緊急搬送は平成 22 年 1 月～7 月に大館地区の出動が 1,259 件でそのうち 993 件 (78.9%) が当院へ搬送されている。その他に北秋田市および鹿角市からも救急車で搬送され、北秋田地区の救急医療を当院で引き受けている。研修医は毎月 4 回の当直および日直 (ただし指導医のもとでの副当直) を行っている。当直はほとんど仮眠をとれないくらい忙しい。日当直で経験した症例はカルテ以外に研修医用日当直日誌に記載し、指導医がチェックし評価してもらっている。日当直で診察した症例はすべてメンタである丹代論小児科部長と毎週火曜日 5:30pm から検討会を行って

る。研修医が診察、治療およびトリアージした症例の検討およびその後の経過について確認し自分の救急診療にフィードバックしている。

当院における救急診療は二次救急までであり、必ずしも三次救急に対応していないことから研修医の三次救急の研修が不可能である。2年前に奈良昌樹外科部長が当院へ赴任し、将来当院の救急診療の中核となる先生である。1年前にテレビドラマ「コード・ブルー ドクターヘリ緊急救命」のモデル病院となった日本医科大学千葉北総病院へ三次救急診療の研修目的で奈良先生を6週間派遣した。6週間の研修期間中に2回ドクターヘリに搭乗し救急現場へ急行し、現場で処置を行い千葉北総病院へ搬送の経験をした。奈良先生から当院の研修医に三次救急を経験させたく同病院へ研修医の受け入れをお願いしたところ快く引き受けてもらい、また、千葉北総病院救急医の腹部外科の研修を当院へ受け入れてほしいとの依頼があった。双方の臨床研修委員会です承が得られ平成23年度から相互に受け入れ可能となった。当院で6ヶ月間の内科研修終了後、3ヶ月間の救急研修の2ヶ月間を①2ヶ月間千葉北総病院②1ヶ月間大館市立総合病

院、1ヶ月間千葉北総病院③2ヶ月間大館市立総合病院、の3つの選択肢から選択することにし、研修医に①を選択するよう勧める予定である。

館岡博院長がいつも口癖に「若い立派な医師を育てる病院にしたい」と言っている。当院は北秋田地区の中核病院であるが、当院以外の施設にも協力してもらい各指導医およびスタッフが若い立派な医師を育てることで一丸となっている。



小児科丹代論部長（左）と救急外来患者の検討

「湖東総合病院の医師確保対策を推進する協議会」を立ち上げました。

湖東総合病院の深刻な医師不足に対応し、勤務医の負担軽減と、地域住民の健康を守るために、八郎潟町、五城目町、井川町、大潟村の4町村と、湖東病院を守る会、湖東総合病院、秋田県厚生連医療従事者確保対策室、そして秋田県医師確保対策室で構成する協議会を立ち上げました。

病院、行政及び地域住民が一体となって、医師の招へいに向けた活動を行っております。

◎地域医療に興味のある医師の皆様へ

五城目・八郎潟ICから車で5分！秋田市（秋田中央IC）からも車で30分！地域医療の最前線で現場を感じてみませんか？

○病院見学のお知らせ

- ・湖東総合病院で勤務をお考えの医師の方並びにそのご家族の方を対象に、病院見学及び周辺地域のご案内をいたします。
- ・日程等については、ご希望をお伺いしながら決めさせていただきますので、お気軽にご連絡ください。
- ・旅費等については当方にて負担いたします。



※お問い合わせはこちらまでお願いいたします。

湖東総合病院 総務課

〒018-1605 南秋田郡八郎潟町川崎字貝保 37
TEL：018-875-2100 FAX：018-875-5269
E-MAIL：koto-kgh@gold.ocn.ne.jp

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室

〒010-8570 秋田市山王四丁目 1-1
TEL：018-860-1410 FAX：018-860-3883
E-MAIL：ishikakuho@pref.akita.lg.jp

豊かな自然と暖かい人柄、おいしいお酒が皆様をお待ちしています！

2010年7月17日土曜日に、「ともそう愛の灯、つなげよう心の輪」というテーマのもと第一回「癒しの川キャンドルナイト」を開催し、成功裏に終えることができました。ここに開催までの経緯を紹介いたします。

本荘第一病院の裏には、子吉川の河川敷公園「せせらぎパーク」が広がっています。このパークは川の持つ安らぎ、癒しの場という特性を福祉と医療に活かすという視点から、車いすでも水辺までアクセスできる遊歩道などを整備した河川公園で、計画段階から、市民と地元行政、医療・福祉関係者、河川管理者がコラボし、ユニバーサルデザインの理念で川づくりがおこなわれました。公募により名称は河川公園全体が「せせらぎパーク」と名付けられ、人と自然が融合する癒しの場として、患者さんの運動療法やリハビリ、子どもたちの環境学習などに利用されています。

この「せせらぎパーク」を散歩すると、なんというか、ここがかるやかに、そしてやわらかくなるような気がします。町の喧噪からはなれ、耳に入ってくるのは、川のせせらぎ、鳥のさえずり、虫の声、風にそよぐ草木のざわめき…このパークは、街中にありながら心を俗事やストレスから遠ざけることができる癒しの空間なのです。この空間をより多くの方々に味わってもらうために、何らかのイベントを開催できないだろうか、と考え始めました。そこで出会ったのが、数百～数千本のキャンドルを屋外に並べ灯を灯す「キャンドルナイト」というイベントです。火を灯す、という行為は、少なくとも数十万年前から、人類の生活に密着しており、人類は炎とともに進歩してきたと言えます。キャンドルを灯し、炎の揺らぎをみていると、なぜか心が安らかになるのは、ともに歩んできた歴史が関わっているのかもしれませんが。



せせらぎパークでのキャンドルナイトを提案したところ、院内各部署のスタッフ大勢が賛同し、4月に実行委員会を発足させることができました。全く初めての試みなので、何をどうすればよいのか誰もわかりません。ネットで調べ、試行錯誤を繰り返し、最終的にペットボトルを利用したキャ

ンドルを作成する方針に到達しました。収集、洗浄、加工、保管した2500個のペットボトルキャンドルと配置計画、同時開催した詩の朗読、手作りキャンドルカップコーナー、テント、椅子、音響、照明、ポスター、Web siteなど、すべての準備が完了した段階で、この企画は既に成功した、と感じました。院内各部署のスタッフが、同じゴールを目指し、一生懸命になったことで、既に一つの成功でした。あとは、夜勤後の夜中に指にタコを作って頑張ったスタッフ、休日返上で委員会に出てきたスタッフ、そして当日会場を訪れるであろう市民の皆さんへのご褒美として、当日、好天に恵まれ、キャンドルに火を灯すことができますように、と祈りました。

そしてイベント当日、天候に恵まれ大成功でした。あちこちから「きれいだね～。すごいね～」という感嘆の声が聞こえてきました。また、訪れた子供たちに、キャンドルカップを手作りしてもらおう企画も予想どおり盛況でしたが、予想外に大人にも人気で、手作り用カップが足りなくなったのは、うれしい誤算でした。

今後は、町内会、学校、地元企業などを巻き込んで、より多くの市民の方々に（企画段階から）参加していただけるようなイベントに育てて、当院の理念である「地域と手をつなく医療」を実行していくのが目標です。



指導医メッセージ



秋田組合総合病院
診療部長

大谷 浩



研修医のみなさんへ、卒試・国試を通過し、忙しい研修医生活を送っているかと思います。研修医生活は、これからの長い医師生活のなかでほんの短い期間ですが、みなさんにとって、この研修医の時期こそが最も医師として診療経験を積める

時であり、その後の医師生活を規定する大切な時期であると思います。研修医を終了して、それぞれの専門分野に入ってしまうと、どうしても他科の疾患をじっくり向き合って治療することが困難となり、研修医時代に蓄えた知識の範囲で診療してしまいがちになります。そのため、研修医のうちに、その科、その科の基礎をしっかりと身につけ、少しでも多くの症例を経験することが必要だと思います。また、研修医時代に経験した症例や大変だった症例はその後、ずっと忘れないものであり、実際、小生も医師歴 20 数年ですが、研修医以後の診療に比べて、研修医時代に大変な思いをした症例や経験は鮮明に記憶されています。この時期に、積極的に大変な思いをし、困った経験をすることが、その後の医師生活にとって大きな財産になると思います。これからの長い医師生活で、研修医という特別なスタンスで診療する時期はもうないと思って、この時間を大切に診療にあたってほしいと思います。



中通総合病院

〒010-8577 秋田市南通みその町3-15
Tel 018-833-1122 (代表)

中通総合病院は秋田市の中心に位置し、秋田駅より徒歩 15 分の至便なところにある総合病院です。

病床数は 539 床で、そのうちの 48 床が療養病床です。私的病院としては県内で最大の規模で、年間 2400 件ほど（平成 21 年）の救急車を受け入れる救急診療を始めとした急性期医療、がん治療などの先進的医療、また高齢者の医療に力を入れています

当院は厚生労働省の臨床研修指定病院にも指定されておりますが、若い医師の育成という面では長い歴史と実績があり、自らローテート研修を経験した指導医達のみならず、看護部・検査部・事務職員など院内スタッフすべてが、研修医の指導・研修環境整備に熱心で協力的である事が特徴です。

毎朝救急外来で行われている研修医全員参加の「救急カンファランス」は、当直帯に来院された症例の対応を各科指導医とともに検証するという形式で、プレゼンを行う当直医だけでなく参加医師全員が多くの経験を共有する事ができるため、研修医にはもちろん、指導医にとっても生涯学習の場として好評です。

更に、繁華街である川反まで徒歩 10 分という立地は、忙しい研修の合間にも、研修医同士の情報交換、スタッフとの親睦が図りやすいという意味で、良い環境と考えています。



医学生スキルアップセミナーの開催

医学生のみなさんを対象に、スキルアップセミナーを開催します。診療科別集中セミナー、先輩研修医のケースカンファレンス発表会見学など、研修と交流を主とした内容です。

期 日：平成 22 年 10 月 23 日(土) 募集定員：40 人程度
会 場：ホテルサンルーラル大湯 参加費等：無 料

県外大学からの参加者については、秋田駅までの往復旅費も支給します。参加を希望される方は下記にお問い合わせください。



昨年度のスキルアップキャンプ受講風景

… お問い合わせ先 …

E-mail : ishikakuho @ pref.akita.lg.jp Tel. 018-860-1410
秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号